



Link “新風”



第 30 号
(通算 第 123号)

ゴールデンウィークはいかがでしたか？気温の変化が激しいので体調をくずさないようにしてください。元気にはりきってお仕事しましょう

春爛漫

春を迎え、過ごしやすい季節になりました。世界同時不況から抜け出せないまま5月を迎えましたが、季節は間違いなく巡って来ます。

皆さんは見ましたか？わが社の第2工場北側のツツジがきれいに咲きました。普段は人の目に触れない目立たない存在であるがゆえに、どうだと云わんばかりに咲き誇っています。一日でも長く咲いていて欲しいものです。たまには、本社工場敷地を隈なく見て歩くといいでしょう。



特に人目につかない裏側を見るといろいろ発見があります。ここは、こうしたほうが見た目に良いとか雑草が多くなってきたとか。この見方を習慣づけると、仕事にも活かせるのではないかと思います。例えば、客先に提案する設備構成や機器選定を行うとき四方八方から見渡すことができ、リスクの排除や細かな気遣いにも役立つはずと考えます。正面から見ただけでは、隠れた重要なことが見えないし、客先を感動させる材料が不足気味になるでしょう。

清掃のハナシ：今日もお客さんに気持ちよく弊社に入っていただき、成果を上げて気分よく帰ってくれますように！今日もグッドニュースが入ってきますように！今日も事故や怪我が無いように！こうした願いを込めて掃除をすると楽しいものです。自分のためではなく他人(ひと)のためにやる楽しさかな。

ラジオ体操のハナシ：朝7時から流れる音楽を聴きながら今日一日のスケジュールを確認したり新聞を読んだり、ラジオ体操で普段使わない筋肉を思い切り動かすと気合が入りますね。体操はいいものです。まだ起きていない心身をしゃっきりさせ、今日一日の予定に思いを馳せ、外の木と会話することもできます。環境を変えてたまには外でするのもいいでしょう。生気が逃げてしまうダラダラ体操が一番まずい。

私どもは、日常の行動に無意識のうちにも何らかの意義を見出さなければ、真の価値観がいつまでも分からずじまいになるような気がします。例えば、設計・製造に当たっては、お客様が生産するものは何か、我われはその製造ラインでどういう貢献をするのか、どうしたらもっと喜んでもらえるか、この仕事を通して自分は何を得るべきかななどを念頭においておかないと仕事をしてもらったくないような気がするのです。言わば、単なる作業をしているに過ぎないと思えます。苦しくとも確固たる目標を持った仕事を成し遂げた暁には大きい成果が待っているでしょう。

話は変わりますが、第81回選抜高等学校野球大会にわが母校掛川西高等学校が15年ぶり4回目の出場を果たしました。3月27日の1回戦で敗退するも選抜球史に名を連ねたことは先輩としては大変嬉しいことでした。また、迫力とマナーが一体となった応援が認められ、応援団賞の優秀賞を獲得したこともさわやかな印象を与えてくれました。後輩諸君に乾杯！です。

その掛川西高等学校の近くに「大日本報徳社」があります。二宮尊徳の報徳の精神を受け継いだ弟子たちが明治36年ごろに設立したものです。遠州地方に多くの企業家を輩出した理由に、“やらまいか精神”とこの“報徳思想”が結びついたからだと言われています。報徳思想とは、次の三つの柱から形成されています。「勤労(大きな目標に向かって行動を起こすとしても、小さなことから怠らず、つつましくつとめなければならない。）」、「分度(家計でも仕事でも現状の自分にとってどう生き、どう行うべきかを知ることが大切である。）」、「推譲(分度をわきまえ、少しでも他者に譲れば周囲も自分も豊になる)」。

掛西の先輩で、現在、(社)大日本報徳社の参事講師の職にある堀内永人氏の著書「報徳の教え」に分かりやすい文があるので紹介します。『約束事やルールが長い間、継続して行われますとそれが常識や習慣となり、そして社会全体で守るようになるとそれが道徳となる。』『定まった仕事や収入が無くても道徳心を持ち続けられるのはごく少数の学問や教養のある人だけで、普通の人は決まった収入や定職が無ければ道徳心を持ち続けられない。道徳と経済のどちらかが欠けても幸せにならない。徳育を軽んじ、知育を重視し利益追求が先行すると不祥事が蔓延する。』言い得て妙。経済の無い道徳は戯言で道徳の無い経済は犯罪であるということでしょうか。心して経営に当たりたいものと思う次第です。



社長 赤堀肇紀



お花がいっぱいです！

敷地内にはいろいろなお花が咲いています♪
忙しい仕事の息抜きにお花を見て心を落ち着かせてはどうですか？

